

豊寿園

FRUITFUL TREE

豊かな樹

Winter 2019

Vol. 41

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOJYUEN

SPECIAL SECTION

TOPICS

MORE CROSS

HOJYUEN×FAMILY

AREA INFORMATION

CARE MEMO

HOJYUEN'S ALBUM



新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

日頃より豊寿園に対し、多くの方々の温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼と感謝申し上げます。当園は皆様方のお力添えをいただきまして、無事に開園23年目の新年を迎えることができました。

昨年は介護保険改定を受け、ますます介護保険施設の運営は厳しさを増した一年でございました。また、介護の人材不足はいよいよ深刻さを増す中、豊寿園におきましては、今後も安定した人材確保はもちろんのこと、職員一人ひとりが誇りを持って働く事ができる職場環境づくりにも取り組んでまいりました。

本年も豊寿園がますます地域の皆様に愛され、利用者様へ質の高いサービスが提供できるよう体制整備に努めてまいる所存でございますので、変わらぬご支援とご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。本年が皆様方にとりまして輝かしい一年となりますことを心よりご祈念申し上げます。

園長 森 広樹



SPECIAL SECTION



トピックス

T O P I C S

ご家族との意見交換会を開催しました！

11月11日に、ご家族にお越しいただき意見交換会を開催しました。この意見交換会は、昨年度で廃止になった家族会が行っていた行事を今年度から園主催に変更したものです。当日は、サービス内容に対しての意見交換会や、園からのお知らせなどをお伝えしました。また、「感染症」についての勉強会もあわせて行い盛会でした。



第2回目の消防訓練を行いました！

11月14日に、今年度2回目の消防訓練を行いました。今回の訓練では、日中にデイサービス内から出火したという想定で、介護職員を中心に、他職員の連携により、初期消火から通報、利用者様の避難誘導までの手順を確認しました。終了後には、水消火器による消火器の使用訓練も行いました。

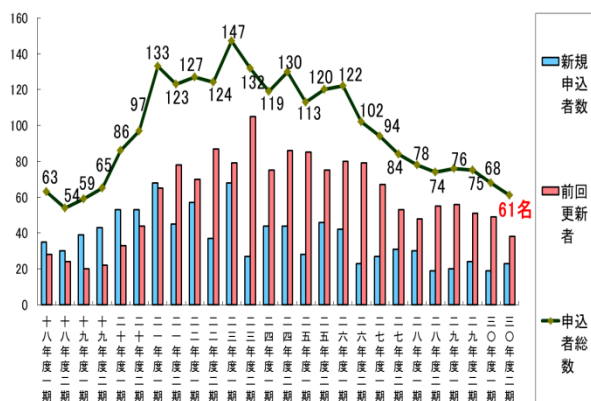


12月からの待機者が決定しました！

11月20日に、外部第三者委員を交え、12月からの半年間豊寿園の入所をお待ちいただく方々の順位を検討する会議を開催しました。今回は61名の方々に申し込みいただきました。待機順位の進捗はホームページ上でも公開しています。

日赤職員の親善体育大会に参加しました！

11月17日に、福岡県内にある日赤の各施設に勤務している職員対象の親善体育大会が行われ、豊寿園からも12名が参加しました。種目はソフトバレーボールで、豊寿園が誇るスポーツ自慢達が頑張りましたが、結果は惜しくも全敗でした(涙)。来年の頑張りに乞うご期待ください！



10月10日
中学校からの福祉体験実習を受け入れました。

北九州市立松ヶ江中学校1年生6名が福祉施設での体験実習にいられました。二日間の実習では、利用者様との交流だけでなく、食事介助の体験や、一緒にバスハイクに出かけていただくなど様々な体験を通して介護・福祉への理解を深めていただきました。



10月19日、23日
市立小学校の福祉体験学習に出講しました！

10月19日に北九州市立萩ヶ丘小学校4年生約60名を対象にした福祉体験学習へ、森施設介護係長と舞田生活相談員が出講しました。また、10月23日に北九州市立港ヶ丘小学校4年生約60名を対象にした福祉体験学習へ、荒木生活相談係長と舞田生活相談員が出講しました。両日ともに、学校の敷地内にコースを設置し、車いすの操作方法を学んでいただきました。



11月23日
ボランティアの皆さんに園内の清掃をしていただきました！

門司区市職員ボランティアの会、門司区ボランティア連絡協議会の皆さんにお越しいただき、園内の清掃活動をしていただきました。当日は私立豊国学園サッカー部の生徒さんも参加され、総勢90名を超える方々に草取りなどをさせていただきました。

あなたと向き合った日々

HOUJYUEN × Family

今回、奥水介護課長のインタビューを受けてくださったのは、川谷照美様です。お母様をご自宅で介護後、豊寿園への入所、そしてお看取りまでを経験をお話いただきました。



今回インタビューに応じてくださった 川谷 照美様

— 毎日母の様子を見るようになって父が言っていたことが理解できるようにになりました。

元々両親2人で飲食店をしながら生活をしていたのですが、平成14年頃に父から「お母さんがおかしい、認知症じゃないかと思う」と相談を受けたのです。母を見に行つたのですが、その時はあまりおかしいとは気づきませんでした。その後、父が癌で入院することになりました。父から「お母さんを頼む」と言われ、当時私は小倉に住んでいたのですが、毎日門司へ行き、母の様子を見に行く生活が始まりました。毎日母の様子を見るようになって「変なことを言う」、「同じことを何度も言う」等、父が言っていた事が理解できる

ようになりました。毎日、父が入院している病院に母を連れてお見舞いに行き、ご飯をつくって小倉に帰る生活を続けていました。

— 怒ったり馬鹿にしてはいけな
— と思って介護をしていました。

母は、自分が呆けていると自覚して
— ませんから、怒ったり馬鹿にしてはいけ
— ないと思つて介護をしていました。

バックと財布を持つていないと、不安になるので財布にお金を少し入れて持つてもらつていたのですが、その財布をどこにでも置いてきては「ない、ない」と探し始めるので常に目が離せなくなりました。大変だけど自分ではできると思っている母から、できないからと無理矢理取り上げてはいけな
— と思って注意しながら持つてもらい続けました。
私には他に姉と兄がいて2人とも優しい人なのですが、両親は近くに住んでいる事もあつて私を一番頼りにしていたようでした。兄は自宅を二世帯住宅にして自分が両親を見ると言つていたのですが、両親が2人とも「行きたくない」と言うので、両親の意思を尊重したいと思つて私が最後まで看ようと覚悟しました。

— 実は介護より、主人との
— 関係が一番大変でした。

私が母の面倒を看るようになったことについて、私の主人には「姉も兄もいてなんでお前が看ないといけないのか」と理解してもらえませんでした。実は介護より、主人との関係が一番大変でした。自宅で自営業の事務をこなし、家族の食事の準備を済ませてから、母の介護に門司へ走るといふ生活をしばらく続けていました。半分意地になつていたのだと思います。だけど母の認知症の進行と共に、だんだんと母に関わる時間の方が多くなつていき、主人はそれが気に入らなかつたようで、暴



力をふるうようになって、結局子供たちには後押しをされて離婚することになりました。遅かったくらいです。気にすると嫌なので母には離婚のことは言えませんが、後悔はしていません。

「あそこの人みんなおかしいよ」と初回は言っていました。自分もおかしいのに（笑）

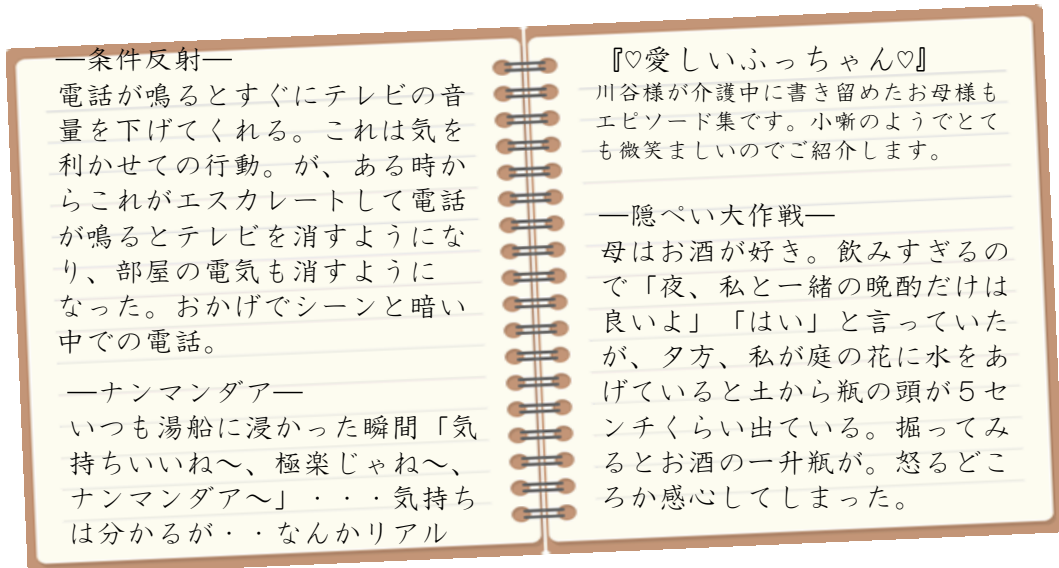
その後、母とは父が亡くなる前に同居を始めました。その頃に、兄嫁から「お母さんおかしいよ。どこか施設に入れないか」と言われました。それで、豊寿園に電話をしてケアマネジャーさんに介護の相談に行きました。面接を受け週1回からデイサービスを始めたいんですが、初回の時は「あそこの人みんなおかしいよ」と言っていました。自分もおかしいのに（笑）。けれど暫くするとおしゃれし始めて、デイサービスに通うのを楽しみにするようになっていったので、徐々に利用回数を増やしていききました。その頃、母が家で小火を起きました。その頃、キッチンで料理している時に油に火が移ったのですが、私が家にいた時だから良かったです。それから心配になり、ケアマネジャーさんに相談をしたところ、一人で家にいる時間を無くそうということで、ショートステイの利用も始めました。その頃の母は時

間の感覚が分からなくなってきたので、夜に「そこそそしていることが増えてきていました」「何しているの?」と声をかけると「掃除をせんといけん」と言うんです。私が「それなら電気くらいつけたら?」と言うと「もつたいないからいい」と暗闇で掃除を始めるんです。気になつて眠れないけど、おもしろいので好きにさせておきました（笑）

「何度も「もう無理」と思うことがありました」

ショートステイの利用も始めてから1年位経った頃、豊寿園への入所が決まりました。内心ホッとしていました。何度も「もう無理」と思うことがありましたが、その度に豊寿園の方達に相談に乗ってもらって、サービスを増やしなから何とかここまで来たという感じでした。入所した当時、まだまだ母も元気だったので、母の好きな温泉や畑に連れて行くとうと心に決めて、入所した後からは毎週末に外泊させる生活を3年半位続けていました。母が歩く事ができなくなつて自宅前の階段を登れなくなつたのを機に止めましたが、母と借りていた畑に出かけ、お弁当を広げて一緒にカッパ酒を飲むことが二人の楽しみでした（笑）。

「川谷様のお母様の介護体験はまだまだ続きます。インタビュの続きは次号でご紹介いたします。お楽しみに」



地域ぶらり情報



ぬくもりを感じる

豊寿園より県道25号線(旧道)を吉志方面に進み、吉志1丁目の信号を左に曲がり新門司方面に進むと、左側にダークブラウンの建物の『PlaysHeart』があります。昨年4月にハンドメイド&観葉植物の店としてOPENしました。店内には、観葉植物と約30名の作家さんの作品が販売されており、その中には全国的に活動している作家さんの作品もあります。作品は、ピアスやイヤリング等アクセサリーや布製のバッグや小物、陶器、人気上昇中のハーバリウムディフューザーも置いてあります。12月の取材時は、苔玉のお正月バージョンやつまみ細工のしめ縄もありました。3ヶ月に1回イベントでマルシェやワークショップを行っています。子供連れでも参加できるようにキッズスペースも設けています。イベント情報はInstagramにアップされています。ハンドメイドは高いイメージがありますが、ここでは手頃なお値段で購入できます。観葉植物もお手頃です。お店は少し分かりづらいかもしれませんが、きっと素敵な一品が見つかると思いますよ。



ハンドメイド&観葉植物の店
PlaysHeart

北九州市門司区吉志1丁目26-2
TEL 093-418-3006
定休日 日曜 営業時間 10:00~15:00



あとがき

新年あけましておめでとうございます。

個人的には、昨年12月に約10年ぶりに、生活相談員から特養の介護へと異動となり、介護業務を覚え、変則勤務に家庭生活を合わせていくなど、慌ただしく2019年を迎えることとなりました。豊寿園に入職して6年目の年、森園長が事務課長だった時に生活相談員へ異動となり、再び森園長の時に戻る運びとなったことに感慨を覚えつつ、これまで生活相談員として客観的に見ていた介護現場の、日々の大変さや、介護・看護職員達の奮闘ぶりを目にして、身の引き締まる思いでいっぱいになっています。

今回の新年号では、そんな各部署で奮闘する豊寿園全職員の写真でページを構成しています。今年もサービス提供を行う現場の目線で様々な豊寿園の取り組みをご紹介します。今年も豊寿園そして豊かな樹に是非、ご期待ください。

平成30年度広報担当 森 英樹



今回表紙を飾ってくれたのは、馬場あゆみさん(特養1階介護職員)です。乃木坂46が好きな、入職して2年目の若手職員です。師走の忙しい中、園内にセットを組んでの撮影に協力してくれました。

介護一〇メモ C A R E M E M O

今回のテーマは「看取り介護」についてです。
豊寿園での取り組みをご紹介します。

看取り介護とは？



看取り介護とは、医師から病状の改善が見込まれないという診断を受けた利用者様が、積極的な医療行為は行わず、慣れ親しんだ施設で、ご家族やスタッフなどの見送りにより、最期の時を迎えていただくケアです。これまでは、高齢や病気などにより衰弱が著しい場合、医療機関で療養することが一般的でしたが、延命治療や人生の最期における医療に対する意識の変化などを受け、近年では老人ホームでの最期を希望される方も増えてきています。

豊寿園での看取り介護の流れ



豊寿園では、「病院には行きたくない」「長く生活してきた園で最期を迎えさせてあげたい」とご希望いただく事が増えたことを機に準備を始め、平成27年から園内での看取り介護に取り組んでいます。これまで9名の方の最期に寄り添わせていただきました。

豊寿園での看取り介護は、①医師からの病状説明 ②ご本人・ご家族による方針決定 ③対応方法を検討するためのご本人、ご家族を交えた打ち合わせ ④内容に対してのご本人・ご家族の同意 を経て、対応を始めます。また、一旦は園内での看取りという方針でスタートした後も、ご本人・ご家族のお気持ちに変化が生じればそれに合わせて対応させていただきます。

最期まで寄り添って

私の母方の祖母は、晩年、認知症を患い5年後には寝たきりになりました。思い出すのはいつも笑っていた祖母の笑顔です。しかし、実際にベッドに寝ている祖母は、鼻には栄養を流すための管、腕には点滴、顔は全く別人のように浮腫んで、手のひらから肘までもパンパンに腫れあがっていました。その様子を見た時、母が「私にはこんなことしないでね」とぼつり言いました。

豊寿園も看取り介護が対応できるようになるまでは、医療機関に利用者様の最期をお願いするしかありませんでした。入院した後に亡くなられた利用者様のご家族から「豊寿園に戻りたかった」「間に合わずに一人で逝きました」とお聞きするたび、本当に悲しく申し訳ない気持ちになりました。

平成27年から園内での看取り介護の対応を開始してからも、毎回、「十分にケアができていいのか」、「もっとできることはなかったのだろうか」と振り返ってきました。空中に手を挙げ、なにか握ろうとするような仕草をされた方がいました。きっと大切な方が迎えに来ていたんでしょう。「もう口から何も入らない」、その様な状態でも大好きだったお酒を鼻先で開けると、口をもぐもぐされスポンジに含ませたお酒を吸って飲みこまれた方もいらっしゃいました。「好きなものは、変わらないね。」「好きなものはムセないね。」「ご家族と笑い、豊寿園で過ごした日々、元気な頃の武勇伝を話しながらそこに立ち合わせていただけることに感謝の気持ちで一杯になります。

人生の最期のページに立ち合わせていただくということは、私たちの介護の完結でもあります。「看取りは死へ向かうことではなく、どう生きるかである」と話された方がいます。これからも、豊寿園での最期を希望していただいた利用者様が、最後の一呼吸まで全力で生き切る姿を見届け、寄り添わせていただきたいと願ってやみません。

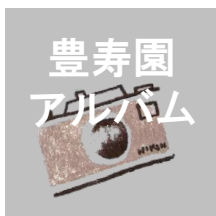
介護課長 奥水 薫

秋 祭 り



10月 豊寿園の駐車場を会場に、秋祭りを開催しました。門司少年少女合唱団、門司学園吹奏楽部、戸ノ上ひよっとこ踊り保存会、松ヶ江北ウェルクラブの皆さんによる演芸や出店をご家族と一緒に楽しみいただきました。

新門司保育所交流会



10月 新門司保育所園児さんにお遊戯を披露していただきました

餅つき会



12月 餅つきを行い、新年の鏡餅を作りました。

琴の鑑賞会



11月 大櫛清子様にお越しいただき、琴の鑑賞会。

買い物



11月 園内でお買い物を お楽しみいただきました

デイサービス

秋祭り



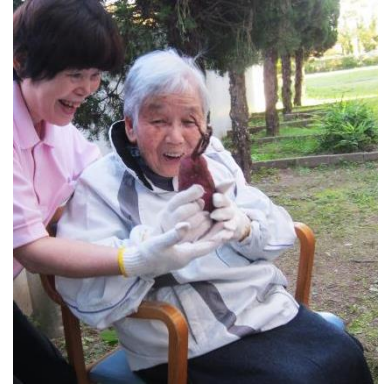
10月 豊寿園秋祭りを
楽しみました。

散歩



10月 お隣の施設で行われた門司
まつりを見に行きました。

芋掘りと
おやつ作り



11月 デイサービスの畑で採れたさつま芋を使って、おやつを作りました。

忘年会



12月 職員の演芸や餅つきを楽しみました。

厨房イベント



11月 厨房職員と一緒に、ちらし
寿司を作って食べました。

winter 2019

vol.41

SPECIAL SECTION

TOPICS

MORE CROSS

HOUJYUEN* FAMILY

AREA INFORMATION

CARE MEMO

HOUJYUEN* S ALBUM



FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOUJYUEN